

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	大田区立梅田小学校
学年	5年生	教科等	音楽科
単元名	日本の音楽に親しもう		
主な ICT 機器	タブレット PC (キーボード付き Chrome OS 機/一人1台)		
授業の概要	4年生から系統的に日本の音楽について学んだ。5年生では、より幅広いジャンルの日本の音楽に親しむことで、音楽を愛好する心情を育てていく。また、音楽の仕組みを生かして音を音楽へと構成していく活動を通して、自分自身で音楽をつくる喜びを味わうことができるようにする。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	プログラミング	STEP 3	・プログラミングによる学びを、よりよい生活や社会づくりに生かそうとしている

本事例における教育の情報化について

ポイント 1	<p>日常的な、一人1台タブレットの活用</p> <p>授業で活用する際は、一人1台端末を活用している。それにより、自分の学習に集中することができ、学びを深めることにつながる。</p>
ポイント 2	<p>Scratch の活用</p> <p>Scratch を使って音を並べ替えることで、旋律を論理的に考え、より良い旋律にしていく。また、プログラムされた旋律を聴き合い友達と意見を出し合う。</p>
ポイント 3	<p>ミライシードのムーブノートの活用</p> <p>振り返りを、ムーブノートを活用して共有することで、全体でまとめたり、友達の意見と自分の意見を比較して考えたりすることができる。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
1	<p>●音楽の特徴を感じながら日本の民謡に親しむ。 「ソーラン節」「かりぼし切り歌」について特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて感じたことや気付いたことを発表する。 ・それぞれの曲の違いや、特徴について話し合う。 ・旋律の動きや拍の流れについて感じ取る。 	<p>○教科書の挿絵や説明、歌詞を参考に、仕事をしている場面を想像しながら聴いたり、一緒に口ずさんだりすることで、拍にのったリズム（ソーラン節）と拍のない自由なリズム（かりぼし切り歌）の違いを体感できるようにする。</p> <p>☆郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気を付けて主体的、協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【学ぶに向かう力・人間性等】</p>
2	<p>●いろいろな民謡の良さや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴について前時に学んだことをミライシードのムーブノートにまとめる。 ・まとめたものを発表し、意見交換をする。 ・他県の民謡を聴き、曲の特徴を感じ取る。 	<p>○「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」の特徴をまとめたミライシードのムーブノートや板書を使って、似ているところや違うところを探すように声掛けをする。</p> <p>☆日本の民謡の歌声やリズム、旋律などの特徴や違いを感じ取り、それぞれの楽曲の特徴や演奏の良さに気付いている。【知識・技能】</p>
3 (本時)	<p>●旋律の上がり下がりや、リズムを工夫して2小節の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Scratch を使って旋律のリズムを決める。 ・つくったリズムを友達同士で発表する。 ・旋律の音の上がり下がりや終わりの音を考えて自分の旋律をつくる。 ・ワークシートに自分の旋律を記録する。 ・自分のつくった旋律をリコーダーで練習する。 ・つくった旋律を友達同士で発表する。 	<p>○Scratch を使ってできた旋律はリコーダーで演奏することで、思いに沿ったものかどうか確かめられるようにする。</p> <p>☆日本の音階や旋律の特徴が生み出す良さや面白さを生かして、旋律の音の上がり下がりやつなげ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。【思考・判断・表現】</p>
4	<p>●組み合わせを工夫しながら、友達のつくった旋律とつなげて、まとまりのある旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三人一組になり、それぞれがつくった旋律を互いに発表して聴き合う。 ・旋律の組み合わせを考えてつなげて、8小節のまとまりのある旋律をつくる。 ・「くりかえしの旋律」をつくり、重ねて演奏する。 ・つくった旋律を発表し、互いに聴き合う。 	<p>○音の上がり下がりや反復を考えて、組み合わせを工夫することができるようにする。</p> <p>☆旋律のつなげ方や重ね方の特徴のよさや面白さを理解し、反復を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて8小節のまとまりある旋律をつくっている。【知識・技能】</p>

本時の流れ

段階	● 主な学習活動・児童の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを知る。 ・ 旋律の上がり下がりによって様々な印象の曲ができることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時で鑑賞した「日本の民謡」を振り返る。旋律の上がり下がりによって様々な旋律の形があることを振り返る。
旋律の上り下がり工夫して2小節の旋律をつくろう。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● Scratch を使って「5つの音」を使った2小節の音楽をつくる。 ・ リズムの組み合わせを考える。 ・ 音の組み合わせを考える。 ・ つくった旋律を Scratch で再生して確認する。 ・ Scratch を使ってつくった曲と、工夫したところをワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ● つくった旋律を隣の友達と自分がつくった曲を紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ● つくった曲を児童が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始める音をきめて旋律の動き（上行、下行など）を考えて旋律の形を決めることを伝える。 ○ 教科書の「音の上がり下がりの例」を参考にして、考えるように指導する。 ○ 理由をはっきりさせるためにいくつか試して、より気に入った旋律になるように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、旋律の音の上がり下がり工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表する時に、工夫したところや音を選んだ理由も発表するように伝える。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時を振り返る。 ・ 旋律の音の上がり下がり工夫し、どのような音楽になったか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の上がり下がり工夫してまとまりのある音楽にするためにどんな工夫をしたのかについて振り返る。

授業の実際

【ポイント1】 Scratch の活用



Scratch を活用したことで、誰でも簡単に思い通りの音楽をつくることができる体験を通して Scratch に興味をもつ。

今後に向けて

- Scratch を活用して、旋律を論理的に考え、より良い旋律にしていくことができた。また振り返りを、ムーブノートを活用して共有し、友達の意見と自分の意見を比較して考えることができた。今後もムーブノートの分析方法なども検討し、効果的に取り入れていく。
- 児童は I C T を使い慣れており、スムーズに活動に取り組んでいた。日常的な I C T の使用を継続していきたい。